

追い詰められて



東郷 潤

**差別は、相手への認識を間違えること
とで生まれるものです。たとえばある
星で、異教徒は悪魔だと教わった
人々が、初対面の異民族を悪魔だと
誤解してしまったとします。**



こ、怖い！



そして人々は、「異民族は悪魔」という誤解に基づいて、異民族を殺害しました。

悪魔どもめ。死ぬば
何も出来ねえだろう！



この間違った認識は、間違いに気づけば修正されます。

間違いに気づけば・・・



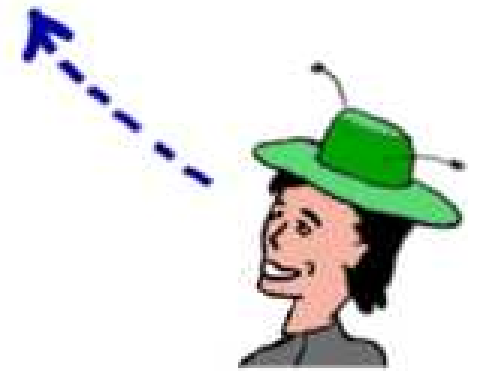
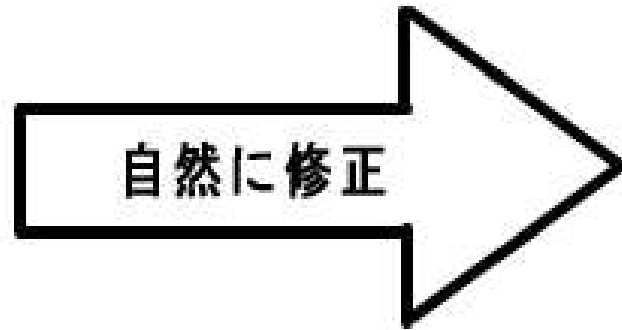
ええ！？
もしかしてこれは
俺たちへの贈り物
だったのか！？

修正されます。



**俺たちが殺した
のは、普通の人々
だったんだ**

このように認識の修正は、人の心の中で自動的に行われます。認識が変化すると、異民族への感情も変化しますね。



こうして認識が修正されれば、それ以降、人は修正された認識に基づいて行動するので、差別は生まれません。しかしながら、様々な理由により修正された認識を受け入れられないこともあります。つまり、現実逃

避をしたいという人も中にはいること
とでしょう。こんな風に目を閉じて。

だって奴らは
人間じゃない、
ただの動物 なんだから！

猿と同じだ！

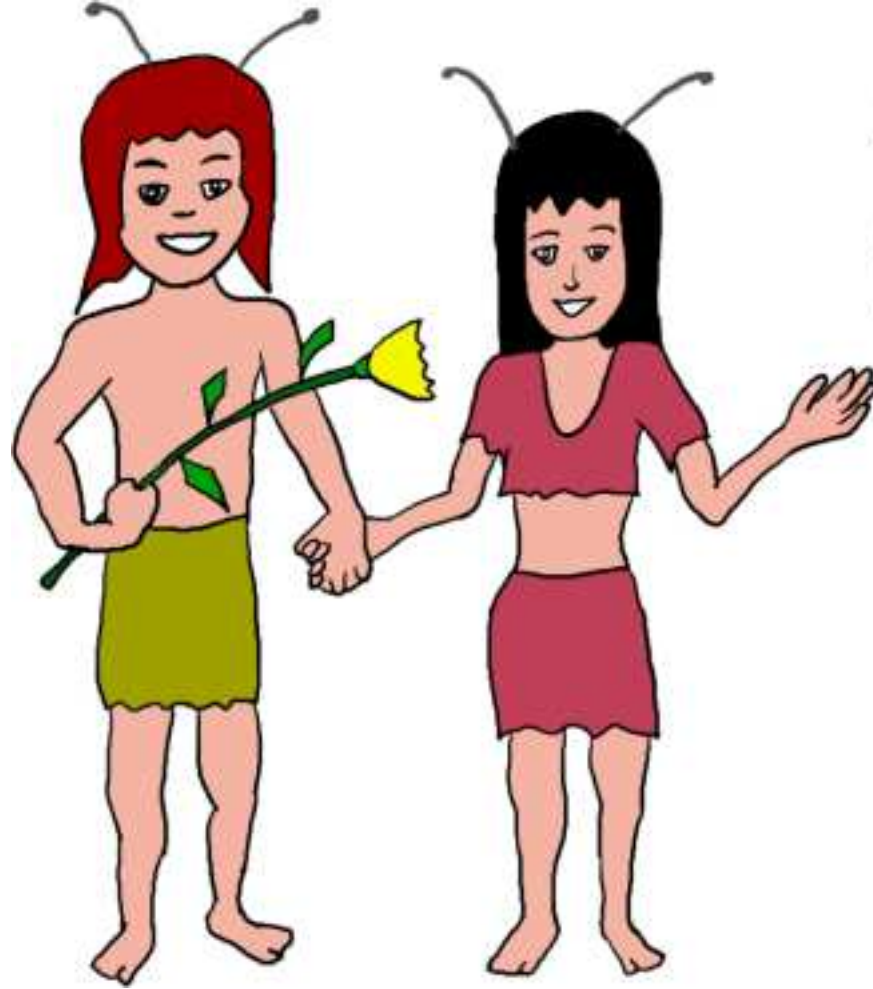


**これはつまり、自分が殺した異民族
への認識を、次のように変化させる
という宣言に他なりません。**



**これは認識を、わざと間違えるという
ことです。 むろん、この変化は自
然には生じません。人為的に、いわ
ば無理して行なうものです。**

ではここで想像してみてください。
もしあなたなら、どうやって、この
人たちが猿だって自分自身に信じさせ
せますか？

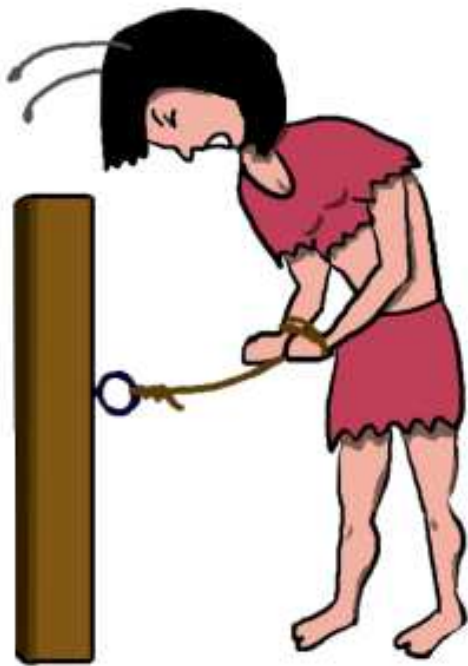


**ねえ、私たちって
猿に見える？**

認識をわざと間違える、というのは、決して簡単なことではありません。並大抵の工夫・努力では、人は猿には見えません。それこそ、発狂でもしない限り・・・

**ところがこの星には、彼らを猿だと
認識することに成功した人がいるの
です！**

キャー!!



この猿め!

さあ彼は、いったいどんな工夫・努力をして、異民族が猿に見えるようになったのでしょうか？ 繰り返します。 **並大抵の工夫・努力では、人は猿には見えません。発狂でもしない限り・・・**

**彼の心の中には何があったのでしょうか？
何が彼にそれほどの無理をさせたのでしょうか？**



地獄に落ち
たくない！
俺は悪く
ないんだ！

俺が殺したのは
猿だ！ 猿だ！
猿だ～！！

あとがき ー絵本「追い詰められて」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を

除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013